連載＝四国八十八ヵ所めぐり「歩き遍路の旅」3

日本先史古代研究会　会員　樋口俊介

発心の道場（阿波の国）　その３　「1番（霊山寺）～23番（薬王寺）」合計23ヶ寺（徳島県）

発心（ほっしん）とは、　四国霊場巡拝を志すこと。はるか彼方に向かって
1200Kmあまりの辺路（へち）の旅へ、皆様をご案内いたします。
当日に歩くお寺に関する由来とか伝説等の内容を分かる範囲で説明をします。
これからが修行のスタートです。必ず最後まで歩き通します。

第５回目＝平成20年９月６日（土）鮎喰川の清流に沿って歩く

歩き（ウォーキング）遍路　札所0ヵ所　約16Km

前回歩き終えた12番から13番（大日寺）へ22Km のうち今日の予定（16Km）を歩く、玉ケ峠を上り下って福原を通り、鮎喰川に沿って歩き阿川橋までひたすらに歩き続ける。大日寺は弘法大師が開かれたお寺です。

弘法大師が弘仁6年（815）にこの地を巡っていた際に、鮎喰川の対岸にある「大師ヶ森」で護摩の修法をしていた。その時に大日如来があらわれたので、大師は大日如来の像を刻んで本尊としてお堂を建立したといわれている。しかし、この大日寺の本尊は大日如来でなく、十一面観音像。四国八十八ヶ所には4番札所と28番札所にも「大日寺」があるのだが、そちらは寺名のとおり大日如来が本尊である。鮎喰川に沿って歩きながら、川添えで足を止め、また橋の上からのぞきこむと水が澄み切っていて気分が洗われ疲れが取れます。日常の生活での中で日頃の常識とか世間的な価値観に、押しつぶされそうになることも。そんな中で日々を過ごすうちに、本来の自分を見失ってしまうのかも知れません。

しかし歩いていると、そういう人たちが、四国を歩く。もう一度、本来の自分に出会うために、歩く。複雑な日常に比べ、この歩き遍路はとてもシンプルです。歩けば必ず辿り着けるという明快な答えがあります。そのことを頭ではなく、自分の体で感じることが出来ます。

阿川橋より少し先の長瀬橋まで歩く予定より2Kmくらい多く歩く、16時05分バスに乗り一路　岡山へ林原駐車場には19時30分到着した。あと我が家へ

第６回目＝平成20年10月４日（土）初秋の穏やかな町並みを行く

歩き（ウォーキング）遍路　札所５ヵ所（13～17番札所）　約１5Km

平成20年10月４日（土）　初秋の穏やかな町並みを行く

歩き（ウォーキング）遍路　札所5ヶ所　約15Km

13番（大栗山）大日寺　所在地＝徳島県徳島市一宮町西丁263
電話＝(088)644-0069

宗派＝真言宗大覚寺派
開基＝弘法大師
本尊＝十一面観音菩薩

○一宮神社の別当寺であったが、明治の神仏分離令で神社の十一面観音像が大日寺に移り本尊となった。本来の大日如来像は脇侍仏である。本堂は明治時代に再建された。門をくぐるとすぐに合掌をしている観音像があり、合掌している手の中に小さな観音像が入っている。「しあわせ

観音」と呼ばれ、幸せを願うとご利益があるとされている。

◎十一面観音菩薩について　　観音菩薩は姿を変えて衆生の願いに答えてくれるという。多くの面は、救済の多様性を表している。

筆者紀行

岡山林原駐車場をバスで6時50分に出発し、前回歩き終えた長瀬橋の近くに10時05分頃に着き準備を済ませて10時25分から歩き出し、約7．5Km を2時間10分（途中10分休憩する）で13番（大日寺）に到着する。川の土手、田んぼのあぜ道、細い道、遍路道等を歩いていると近くの人々が手を振ってくれる人、声をかけて頑張ってと励ましてくれる方々あり感謝です。そのお蔭で疲れも取れ気持よく歩けました。

昼食は大日寺の境内で弁当を食べる。13時15分に14番（常楽寺）へ元気を取り戻して歩き出す。

14番（盛寿山）常楽寺

所在地＝徳島県徳島市国府町延命 606

電話=（088）642-0471

宗派＝高野山真言宗
開基＝弘法大師
本尊＝弥勒菩薩

○境内に入ると、自然の大岩盤で出来た「流水岩の庭園」が広がる。現在も雨風などにより形が変化し続けており、その景観には思わず目を奪われろ。弥勒菩薩を本尊とするのは、四国霊場ではここだけ。荒々しい岩の上に本堂や大師堂が建っている。自然と一体となった雰囲気である。本堂前の見事なアララギの霊木は、万病に霊験があるという

◎弥勒菩薩について　　釈迦の弟子であり、釈迦入滅から五十六億七千万年後に再び現世に現れる。そのとき如来となって衆生を救済するという。

筆者紀行

13番から歩いて3．3Km を50分で着く。お参りを済ませ少し休憩する。途中にて又も、お接待を受けるお茶にお菓子を頂く。四国の方々の心ずかい感謝感激です！！世の中で不安や心配事で悩んでいる人に、出　来たら、お遍路の道を歩いてみてほしいです。きっと、答えが見つかると思います。そして歩いて得たこと

は、誰にも奪われることはありません。旅から戻ったとき、きっと前よりもひと回り大きくなった自分に気づくと思います。さあ、気分も新たに15番に向け歩き始める。

15番（薬王山） 国分寺

所在地＝徳島県徳島市国府町矢野 718-1
電話＝(088)642-0525

宗派＝曹洞宗
開基＝聖武天皇
本尊＝薬師如来

○聖武天皇は国家の安泰を願い諸国に66の国分寺を建立した。この国分寺もそのひとつで、天平13(741)年に建立された。隆盛を極めたが兵火で焼失、江戸時代後期に再建されている。「鳥瑟沙魔明王」というトイレの神様が祭られていて地元では有名。不浄金剛とも呼ばれ、世の中のけがれや悪を焼き尽くして、不浄を清浄にする徳をもっているとか。トイレにお札を貼ると、下半身の病に霊験あらたかという。

◎薬師如来について　人間の病苦を癒し心の苦悩、厄を取り除くなど 12 の請願を表わす如来で四国霊場には一番多く祀られている。

筆者紀行

14番から歩いて0．8Km を10分で15番に着く。お参りを済ませて、次の札所に行く準備を行なう。国分寺までは、田んぼを横目に歩き住宅に囲まれていて入口がどこだか分かりにくいが、山門をくぐり、目の前に見える重厚な感じの本堂は、とても趣があって歴史が感じられた。また庭は巨立石で石組みされて築山、枯滝などが表された安土桃山時代の古庭園だ。大岩のトンネルをくぐったりもでき、素晴らしかった。

見どころ満載なお寺で満足した気持ちで、16番札所をめざして出発する。

16番（光耀山） 観音寺

所在地＝徳島県徳島市国府町観音寺 49-2
電話＝(088)642-2375

宗派＝高野山真言宗
開基＝弘法大師
本尊＝千手観音菩薩

○天平13年に聖武天皇の勅願道場として創立された。弘仁7年に弘法大師がおとずれ、千手観音菩薩を刻んで本尊とし、脇侍に鎮護国家のために毘沙門天、悪魔降伏に不動明王を刻んで安置。69番札所にも同名の観音寺がある。土塀や石垣のかわりに、寄進額を記した石碑が境内を囲んでいる。子供の夜泣きに霊験あらたかな地蔵尊がある。

◎千手観音菩薩について　千手千眼自在菩薩というのが正式な名前で、それぞれの手に目を持つ。さまざまな持ち物を手にして世界の衆生を救済する。

筆者紀行

15番から歩いて2．2Km を40分で16番に着く。距離的に近く平坦で曲折がなく、疲れを感じないくらいに早く本堂の前には、如来の足の裏の模様が刻まれた石、「仏足石」が置かれている。如来には「身体が黄金である」、「目が青い」など、超人的な特徴がたくさんあるのだが、「足の裏に模様がある」のも、その特徴のひとつなのだ。境内には、自然石に囲まれた「夜泣き地蔵」という、お地蔵様が祭られていたが、これは、お地蔵様が夜に泣くというのではなく、お参りすると子供の夜泣きが治るといわれている。また、不眠に悩むお年寄りの方も願かけに訪れるとか。願いが叶うと、お礼に赤い涎(よだれ)掛けを奉納するのが、習わしになっているそうです。さあ本日予定の最後である17番へ気を引き締めて歩きます。

17番（瑠璃山）井戸寺

所在地＝徳島県徳島市国府町井戸北屋敷 80-1
電話＝(088)642-1324

宗派＝真言宗善通寺派
開基＝天武天皇
本尊＝七仏薬師如来

○かっては阿波藩主の別邸門であった鮮やかな朱色の仁王門が、参拝客を迎え入れる。この寺を訪れた大師が錫杖で地面を突くと、清水が湧き出る井戸となったという。その井戸は境内に今もある。堂の左側に日限大師堂があり、弘法大師自からが掘ったという「面影の井戸」がある。
これは、水不足に苦しむこの地の人々を哀れんで掘ったものとか。この井戸水にうつった大師を石に刻んだ「日限大師」も安置されている。

（七仏）薬師如来について

人間の病苦を癒し心の苦悩、厄を取り除くなど 12 の請願を表わす如来で四国霊場には一番多く祀られている。

◎ 筆者紀行

16番から歩いて3．5Km を1時間で到着し。今日の最後のお寺ですので特に念入りにお参りをする。JR 徳島線の踏み切りを渡る。井戸寺の朱塗りの仁王門には大草鞋が奉納されている。鮎喰川をまたぎ、美しい眉山を右に見て国道192号をさらに徳島市の市街地へと進む。JR 徳島駅付近で国道55号へ。このあたりは徳島市の中心部だ。さらに交通量の多い徳島バイパスを小松島市に向かう。今日は車の多い所、繁華街等で、ゆったりと歩けなく大変に気を使いながらの道のりでした。しかしながら終わってみると今日一日の達成感があり気分は爽快です。17時20分に終わり17時30分にバスで岡山へ帰路に林原駐車場に20時30分頃に着き、あと我が家へ。なお本日の歩数は30．651歩でした。

15 番国分寺聖武天皇勅願所

17 番井戸寺

［参考文献］

「四国八十八ヶ所めぐり、お大師さんと行く遍路⑱コース（昭文社）

「ふらりおへんろ旅―空海と仏像に会いに行く！－（KK 西日本出版社）

「四国遍路に行ってきマッシュ！（KK　PHP 研究所）